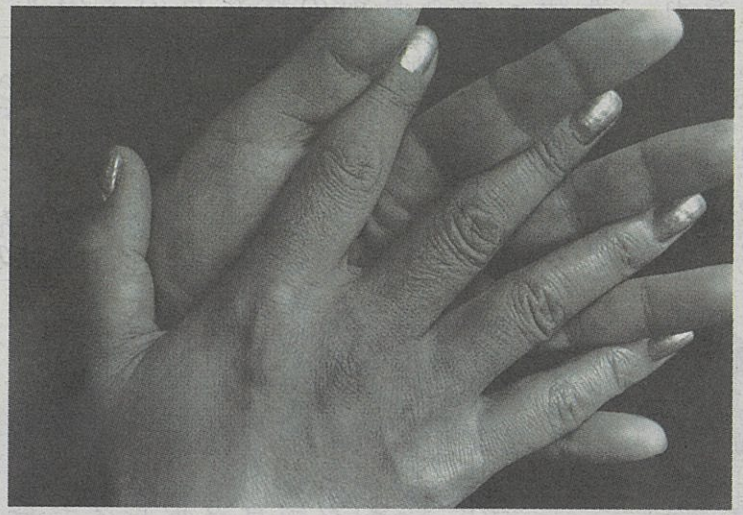

「1・9・4・7 #61」
1988～89年、ゼラチン・シルバー・プリント
77・0センチ×105・5センチ
（作家蔵）

石内 都（1947年～）

《名画の扉》 企画展「石内都 STEP THROUGH TIME」から

「1・9・4・7」は、自身と同年生まれの女性の手、足、顔が撮られたシリーズです。本シリーズが一つの起点となり、以降身体を撮り続けていきます。

40歳を迎えたとき、40年の時間の在りかを考えたと振り返る石内都さん。初めは同じ年生まれの友人、知人だけを撮る予定でスタートしたものの、次第にその大半が初めて会った人たちとなっていったといいます。

双方の身体から発せられる熱量とともにあった撮影は、「今まで感じたことのないなつかしい密度に包まれた心地良い一体感」があったと、当時本作を収めた写真集に記しています。

身体の末端にたまった「時間のかたち」の接写は、1990年代以降展開されていくこととなる新たなシリーズの予兆をも内在しているようです。

（小此木）